

レキシントンの幽霊 論文集

(1)

レキシントンの幽霊にかかれてある「ある種のこと」は悲しみや喪失感である。その根拠は三点ある。一点目はジェレミーのその後で、二点目は眠りの世界で、三点目はケイシーの言葉である。

一点目のジェレミーのその後について説明する。ジェレミーの母親は具合が悪かったが、最初の方では生きていた。そして半年もしないうちに、亡くなってしまったのだ。それから彼は人が変わってしまったとケイシーは言っている。これはケイシーの「ある種のこと」は別のかたちをとるんだ。「に当てはまる。ジェレミーの場合、母親を亡くした悲しみが、星座の話という別のかたちをとったのだ。

二点目の眠りの世界について説明する。ケイシーもケイシーの父親も大切な人を亡くしたときに、眠りの世界に入っている。これはジェレミーと同様に、「ある種のこと」は別のかたちをとる「に当てはまる。父親なら妻を、ケイシーなら父親を亡くした悲しみや喪失感が眠りの世界という形をとったのだ。ケイシーの場合、現実の世界がむなしい仮初めの世界と思うほど、ある種のこと、喪失感は大きかった。

三点目のケイシーの言葉について説明する。「ある種のこと」は、別のかたちをとるんだ。「という言葉である。基礎はここなのだ。ある種のこととは、別のかたちまたは別なものことになるのである。ある種のこととは、具体的にいうと大切な人を亡くしたことだ。普通、大切な人が亡くなったら悲しいものだ。とてつもない喪失感があるものだ。なので、「ある種のこと」は悲しみや喪失感なのである。

(2)

レキシントンの幽霊にかかれてある「ある種のこと」は孤独な心である。その理由は三点ある。一点目はケイシーの母の死、二点目はケイシーの父の死、三点目はケイシーの家の留守番である。

一点目の理由ケイシーの母の死について説明する。ケイシーの母は美しい聡明な人で、ケイシーの父は彼女のことをいつくしんで、とても大事にしていた。その母が死んでから父は眠り続けた。母の死によって父は孤独になった。そして、父の孤独な心は「眠る」という別のかたちをとった。父は三週間眠り続け、目を覚ました。ケイシーの父の孤独な心は死ぬまで癒えずに、父は母を追って行ってしまった。

二点目の理由ケイシーの父の死について説明する。ケイシーの父が死んだとき、ケイシーは母が死んだときの父のように眠り続けた。ケイシーは父を愛し、尊敬もしていた。ケイシーにとつての父は、父にとつての母のような存在だ。ケイシーは、父が死んだことによつて孤独になり、現実の世界はケイシーにとつてむなしい仮初めの世界となった。それ故に、ケイシーの孤独な心は眠り続けるというかたちをとった。

三点目の理由ケイシーの家の留守番について説明する。主人公がケイシーの家の留守番を任せられたとき、主人公は留守番を楽しんでいた。しかし、眠ってしまった「真夜中の奇妙なパーティー」を見た。主人公は古い屋敷に一人で留守番をしていることに孤独を感じていたのだ。そして「真夜中の奇妙なパーティー」を主人公が見たのは、一人で留守番をしていた主人公の心そのものを表現していた。

(3)

レキシントンの幽霊にかかれてある「ある種のものごと」は現実の世界の人の願いである。その根拠は三点ある。一点目は独立戦争で死んだ人達、二点目はケイシー一家、三点目は主人公である。

一点目の独立戦争で死んだ人達について説明する。レキシントンは、一七七五年にアメリカ独立戦争の火ぶたが切られた場所である。よって、その戦争により敵味方関係なく、多くの人々が死んだ。その死者達の中でまだ死にたくなかった、この世に未練がある者が別のかたちをとらずにはいられなくなる。だから、以前人が死んだことがあり、古い屋敷であるケイシーの家で、幽霊としてパーティーを開いたのである。

二点目のケイシー一家について説明する。ケイシー一家は、自分がつくしんでとても大事にしていた人や、精神的にも感情的にも深く結びついている人のために死んだようにこんこんと眠り続ける。これは一点目で書いたように死んでもその人の願いが強ければ、幽霊として出てこられるので、ケイシー一家は眠ることにより、その幽霊達がいる眠りの世界に行き、会いたい人に会うのである。

三点目の主人公について説明する。ケイシーは、父親が死んでから父親に会いたいと思いながら眠る度に眠りの世界へ行った。その強い思いがケイシーの屋敷に染み付いたことにより、その屋敷で眠った主人公は眠りの世界へ行ってしまったのである。その後、もう一度眠りの世界へ行けなかったのは、ケイシーがいなくなつて時間が経つたことと、主人公の眠りの世界へ行きたいという思いが弱いからである。

(4)

レキシントンの幽霊にかかれてある「ある種のものごと」は、眠りの世界のことである。その根拠は三点ある。一点目は父の死、二点目はケイシーの眠り、三点目は真夜中のパーティーである。

一点目の根拠「父の死」について説明する。ケイシーは尊敬していた父の死を受け入れられずに、現実逃避のために深い眠りについた。

二点目の「ケイシーの眠り」について説明する。ケイシーは父が死んで眠り続けたときのように、父が死んだときに眠り続けていた。

三点目の「真夜中のパーティー」について説明する。主人公がケイシーの家の留守番をしていた最初の日の真夜中に、パーティーが催されていた。そんパーティーを行っているのが幽霊だった。

論文に必要なもの

シンプル
つながり
自分がわかること